



ひょうはく
漂泊の俳人

たねださんとうか

種田山頭火

Taneda
Santōka

明治 15 年 (1882) ~ 昭和 15 年 (1940)

山口県防府市生まれ

大正 5 年 (1916)、熊本に移り住む

俳人

わせた
早稲田大学文学部中退の後、郷里で酒造業を営む傍ら、かたわ『層雲』の荻原井
せんすい
泉水に師事し、じゅうりつ自由律俳句を作った。故郷で失敗して熊本に来た山頭火
は、しもとおり下通で「雅楽多」を営み、同人誌『白川及び新市街』の交友に熱中し
た。大正 14 年 (1925) しゅっけとくど出家得度。植木の味取観音の堂守となるが行乞の
ぎょうこつ
旅に出て、放浪の俳人として各地を漂泊。その自由律俳句は、とらわれ
ない生のしんし真摯な表現として人気が高い。